

ARICA アリカ

山崎広太

Inspired by Samuel Beckett

Ne ANTA

ネアンタ

2015年11月5日→8日

シアタートラム



演出：藤田康城 出演：山崎広太・安藤朋子

空白のベケット的直方体の空間が、山崎広太のダンスと、安藤朋子の幽霊の密やかな接触により青白い炎を放ち、静かにゆがんでゆく!!

# Ne ANTA ネアンタ

Inspired by Samuel Beckett



写真(表裏)：宮内勝

これはダンスか!? もちろん、まさに全身、ダンスそのものだ! 演劇はどこに!? この白く発光する部屋は、溢れるドラマ／言葉に痙攣している! おとしの冬の終わりに、東京下町の森下のスタジオでひっそりと上演された『ネエアンタ』。ニューヨークに拠点を移した山崎広太が、久しぶりに日本で真っ向から舞台に向き合った。卓越した技術に裏打ちされながらも、テクニクを越える比類の無い山崎のダンス。そして、太田省吾『水の駅』の伝説的少女から、現在に至るまでラディカルな展開を続ける安藤朋子の声と身体。唯一無二のフィジカル・シアターARICAでの二人の共演は、そこに立ち会った人々の記憶に深くきざまれた。この秋、さらに進化を遂げるその作品は、『Ne ANTA』として、ダンスと演劇の在り方に、再び、大きな衝撃を与えるだろう。

これはダンスか!? もちろん、まさに全身、ダンスそのものだ! 演劇はどこに!? この白く発光する部屋は、溢れるドラマ／言葉に痙攣している! おとしの冬の終わりに、東京下町の森下のスタジオでひっそりと上演された『ネエアンタ』。ニューヨークに拠点を移した山崎広太が、久しぶりに日本で真っ向から舞台に向き合った。卓越した技術に裏打ちされながらも、テクニクを越える比類の無い山崎のダンス。そして、太田省吾『水の駅』の伝説的少女から、現在に至るまでラディカルな展開を続ける安藤朋子の声と身体。唯一無二のフィジカル・シアターARICAでの二人の共演は、そこに立ち会った人々の記憶に深くきざまれた。この秋、さらに進化を遂げるその作品は、『Ne ANTA』として、ダンスと演劇の在り方に、再び、大きな衝撃を与えるだろう。

サミュエル・ベケットに「ねえジョウ」というテレビ・ドラマがある。くたびれた中年の男がひとり。どこからか女の声。その男の惨めな半生を語っているらしい。その女は昔、男に捨てられたようだ。女の声は、男のみすぼらしい生活をしゃべり、男に振られ、ついに海で自死した顔末を語る。男は、見えない死者である女の視線を感じ、声を聞き、おびえと同時に奇妙な幸福感をたたえた表情を浮かべ、佇んでいる。

言葉のない男と幽霊の女の舞台を創りたいと思った。空間に響く声の有り様と、その言葉が結ぶイメージが、舞台に現前する身体と精妙な距離をはかりあって歩む舞台だ。そこで男は沈黙のまま、女によって投げられた言葉を一身に負う。しかし彼の身体は言葉のイメージにたやすく染められことが無く、言葉と身体の張りつめた共振のうちに立ち続ける。

日常的なひそやかな動作が、のべつ不安定に揺れ動いて、その身体を見る者の理解を絶え間なくすり抜ける。山崎広太はあるとき「消費されない身体」を求めたい、と口にしたが、実際安易な感得をゆるさず、模倣できない身体の分裂的な震えが、からだを運ぶ。それは、死も生も成就しないまま、深遠の淵で震えているベケットの登場人物と重なっていくように感じている。

藤田康城

演出：藤田康城  
テクスト協力：倉石信乃  
出演：安藤朋子・山崎広太

舞台監督：川上大二郎・鈴木康郎  
照明デザイン：岩品武顕  
音響デザイン：堤田祐史 (WHITELIGHT)  
衣装デザイン：安東陽子 衣装制作：渡部直也  
宣伝美術：須山悠里 制作：須知聡子

主催・企画制作：ARICA  
提携：公益財団法人せたがや文化財団・世田谷パブリックシアター  
後援：世田谷区  
助成：芸術文化振興財団

山崎広太(やまざきこうた)  
舞踏を笠井敬、バレエを井上博文に師事。文化服装学院卒業。1995年より2001年まで、東京拠点のrosy Coを主宰し、国内外問わず多数公演。建築家の伊東豊雄らとコラボレーション作品他を、シアターコクーンなどで公演。2002年より、NYを拠点に移しKota Yamazaki/Fluid hug-hug主宰。NYをベースに活動。07年NYダンス・パフォーマンスアワード(ベッシー賞)受賞。(glowing) 2012-13年北米ツアー。新作OQ2015-16年北米ツアー。2007年NYダンス・パフォーマンスアワード(ベッシー賞)受賞。2013年、Foundation for Contemporary Artsアワード受賞。2008年よりBody Arts Laboratory代表。  
http://www.kotayamazaki.com/  
http://bodyartslabo.com/

ARICA (アリカ)  
演出・美術の藤田康城、テクスト・コンセプトを担当する詩人・批評家の倉石信乃、故太田省吾と長年にわたり活動を共にしてきた元戯形劇場の女優・安藤朋子らが中心になって、2001年ARICAを設立。いろいろな分野の人々とのコラボレーションによるユニークな作品制作は、演劇やダンスといった枠を超え、ビジュアルアートや音楽、建築やデザインなどのクリエイティブ・ワークと呼応するパフォーマンスとして注目を集めている。これまでにミュージシャンの福岡ユタカやイトケン、美術家・金氏徹平、アクションスト・首くり梶象、鉄厨アルバトロスケットの成井昭人、ダンサーの黒沢美香や神村恵ら、多彩なゲストを迎えクリエーションを展開。劇場以外の公演も多く、空間の特性を見極めたそのサイト・スペシフィックなアプローチや、身体と共振するライブ演奏、メカニカルな装置の導入等を通じて、舞台表現の新たな地平を切り開こうとしている。2013年あいとりエンナーレ参加、海外公演も多く、第17回カイロ国際実験演劇祭ソロパフォーマンス賞受賞、近年はインドの演劇人との交流を深めている。

会場 シアター 154-0004 東京都世田谷区太子堂 4-4-1

日時 2015年11月5日(木) 19:30 11月6日(金) 19:30  
11月7日(土) 14:00/18:00 11月8日(日) 14:00

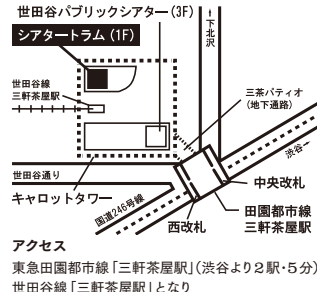
開場は開演の30分前、受付開始は45分前

チケット：8月20日(木)発売  
一般：前売¥3,800/当日¥4,300 全席自由・整理番号付き・税込み/未就学のお子様のご入場はお控え下さい。  
小学生-高校生：前売・当日¥2,500 (当日要確認提示) U24\*：¥2,500 (枚数限定/当日要確認提示)  
世田谷パブリックシアター友の会：¥3,500 セたがやアーツカード\*：¥3,600

\*せたがやアーツカード(世田谷区民対象・要事前登録・前売のみ)は、劇場チケットセンターまたはオンラインチケットのみでお求めいただけます。  
\*U24(18~24歳対象・要事前登録・前売のみ)の詳細は、世田谷パブリックシアターオンラインチケットにて。このサービスは、トヨタ自動車株式会社提供しています。

チケット取り扱い：  
世田谷パブリックシアターチケットセンター 03-5432-1515 (10~19時)  
世田谷パブリックシアターオンラインチケット \*要事前登録  
http://setagaya-pt.jp(PC) / http://setagaya-pt.jp/m(携帯)  
問合せ：mail@aricatheatercompany.com / 080-4200-4551 (平日10~18時)

車椅子スペースのご案内(定員あり、要予約)  
一般料金の10%割引(介添者1名まで無料) 申込=劇場チケットセンター 03-5432-1515  
託児サービス(定員あり、要予約)  
料金2000円 対象 生後6ヶ月以上9歳未満(障害のあるお子様についてはご相談ください)  
申込=世田谷パブリックシアター 03-5432-1526 (ご利用希望日の3日前の正午まで)



www.aricatheatercompany.com